

ディベート資料ガイド「積極的安楽死を合法化すべき？」

For. 1年1組&2組&7組 / By.岡山芳泉高校図書館

※ここに掲載している情報はほんの一例です。ほかの資料を調べる時は、出典と正確さ・鮮度を確認しよう。出典明記もお忘れなく！

関係する官公庁

厚生労働省 (<http://www.mhlw.go.jp>)

例えば…「終末期医療に関する意識調査等検討会」に各種資料あり。(厚労省TOP→政策について→審議会・研究会等→医政局→)

※上記を含め、終末期医療に関する審議会・研究会の資料については、ピックアップしたものを印刷して図書館に置いています。

最初に読みたい基礎資料

- ・毎日新聞「安楽死 尊厳が冒とくか」2014年11月16日付朝刊, 4面. ※特集記事。米29歳女性の事例は各紙で取り上げられている
- ・児玉聡・なつたか (2013) 『マンガで学ぶ生命倫理』化学同人. [490.15] ※特に「第5章 終末期医療と安楽死」
- ・黒崎剛・野村俊明 (2014) 『生命倫理の教科書』ミネルヴァ書房. [490.15] ※基本的な情報が網羅されている
- ・伊藤道哉 (2013) 『医療の倫理 資料集 第2版』丸善出版. [490.15] ※日本のガイドラインほか、世界7か国の資料を掲載
- ・関東医学哲学倫理学会 (2013) 『医療倫理Q&A』太陽出版. [他館資料] ※特に「第8章 緩和ケア、終末期ケアと死」

キーワードで調べる

- ・新聞記事検索 (山陽新聞・朝日新聞) 図書館のカウンタにある検索用PCからアクセスできます
- ・『現代用語の基礎知識』自由国民社[031]
- ・『朝日キーワード』朝日新聞出版[813.7]
- ・『日本の論点』文藝春秋[304] (ほか、小論文解説本も参考にどうぞ。)

参考資料ピックアップ

- ・シャボットあかね (2014) 『安楽死を選ぶ オランダ・「よき死」の探検家たち』日本評論社. ※11/18入荷予定
- ・伊藤道哉 (2013) 『生命と医療の倫理学 第2版』丸善出版. [490.15]
- ・シリーズ生命倫理学編集委員会 (2012) 『シリーズ生命倫理学 5 安楽死・尊厳死』丸善出版. [他館資料]
- ・立岩真也ほか (2012) 『生死の語り行い 1 尊厳死法案・抵抗・生命倫理学』生活書院. [他館資料]
- ・小林亜津子 (2011) 『はじめて学ぶ生命倫理』筑摩書房. [490.15]
- ・塩野寛・清水恵子 (2010) 『生命倫理への招待』南山堂. [490.15]
- ・香川知晶 (2009) 『命は誰のものか』ディスカヴァー・トゥエンティワン. [他館資料]
- ・共同通信社社会部 (2008) 『いのちの砂時計 終末期医療はいま』日本評論社. [他館資料]
- ・五十子敬子 (2008) 『死をめぐる自己決定について』批評社. [他館資料]
- ・飯田亘之 (2008) 『終末期医療と生命倫理』太陽出版. [他館資料]
- ・小笠原信之 (2003) 『許されるのか？安楽死』緑風出版. [他館資料]
- ・三井美奈 (2003) 『安楽死のできる国 新潮新書』新潮社. [他館資料]

その他、芳泉高校図書館で印刷・ファイリングしている参考資料 (特集コーナーにあります。いずれもインターネット上で閲覧可)

- ・樋口範雄 (2007) 『WMA医の倫理マニュアル』日本医師会.
※関連ページを印刷したものを図書館に置いています。ネット上でも閲覧可。日本医師会 (<http://www.med.or.jp>) →医師のみなさまへ→
- ・町野朔 (2006) 「「後期高齢者」の終末期医療と刑法」 ※第5回後期高齢者医療の在り方に関する特別委員会。
- ・恩田裕之 (2005) 「安楽死と末期医療」『調査と情報』(472), 1-10.

資料のお問い合わせは図書館まで♪

ここに掲載している情報はほんの一例です。ほかの資料を調べる時は、出典と正確さ・鮮度を確認しよう。レポートへの出典明記もお忘れなく！